

令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 20	公益目的事業 19
主査名	青木 亮 東京経済大学教授	
研究テーマ	バス事業をはじめとする地域公共交通の持続可能性に関するビジネスモデル構築に向けた研究	
<p>研究の経過（4月～9月）：</p> <p>地域における公共交通手段の維持は過去数十年にわたり厳しい状況が続いており、新型コロナを契機とする生活行動の変容からさらに困難な状況に陥っている。既に3年が経過したコロナ禍はやや落ち着きつつあるが、乗合バスをはじめとする公共交通機関利用者数は以前の水準まで戻るに至っていない。経営を維持するため都市部でも運賃値上げが予定されている他、利用者が少ない路線では自治体等による新たな支援策か、路線廃止かの選択を迫られる動きもある。公共交通を維持するための現実性のある新たなビジネスモデルの構築が求められている。そのためにも鉄道、バスという地域公共交通の現状を継続的にフォローアップすることが有益と考えて研究会を実施している。メンバーの研究対象地域は広範囲に及んでおり、各地の実情や政策に詳しいことを活かし、研究会での討議を通じて地域間の比較分析も実施していく。</p> <p>第1回研究会を7月11日（火）18時から九段下の日交研会議室で対面とオンライン併用で開催した。研究会では、本年度の研究計画を説明するとともに、研究会メンバーから報告が行われた。当日は、これまで調査があまり行われていなかった愛知県北の岐阜県、静岡県との県境地域（浜松市水窪地区、愛知県豊根村、東栄町、設楽町、豊橋市稲武地区など）のバス事業に関する自治体等へのヒアリング調査と実態調査、広島市で地域が主体となり20年以上にわたり運行され、周辺地域でも同様の取り組みが広がる乗合タクシー事業（やぐちおもいやりタクシーおよび周辺7地区での取り組み事例）についてのフォーアアップ調査などについて報告と討議を行った。その後も、研究会メンバーにより、それぞれ各地の事例を中心に調査を進めている。</p> <p>下期へ向けて（課題等）：</p> <p>本年度も年間3回の研究会を計画しており、下期には2回の研究会を開催する。次回は11月29日対面とオンライン併用で開催予定である。また3回目の研究会は年明けに開催を予定している。現状、研究を進める上で、大きな課題は生じてないとする。</p>		